平成 18 年度第 2 回中国・四国ブロッククラブ育成推進協議会」開催報告

日時：平成 18 年 11 月 18 日(土)13：00～17：00
会場：徳島県青少年センター

平成 18 年度第 2 回中国・四国ブロッククラブ育成推進協議会が、11 月 18 日(土)、徳島県青少年センターにおいて開催された。当日は、育成指定クラブ 30 と９県のクラブアドバイザー、県体育協会担当者そして日本体育協会クラブ育成課員と地方企画班員が協議会に参加した。

この協議会の目的は、育成指定クラブの２年間が、補助金を消化するためだけの期間ではなく、クラブにとって必要な種をまき、そして根を張り巡らせ、芽を出し、花を咲かせるための期間となっているのか、地域でクラブの理念が実現するための事業計画、「何のためにやるのか」「そのために何をやるのか」を考え、目的を明確にする手法の習得である。

この協議会を終えるときには、参加した育成指定クラブが、事業計画の重要性を再認識し、また、有効な事業計画の立て方を得てほしいとの願いがこめられている。以下では、会議の様子について振り返る。

１　プログラムの概要

協議会の最初のプログラムとして、パネルディスカッションが行なわれた。テーマは「クラブの理念と事業計画・事業運営のギャップについて考える」というもので、コーディネーターには、地方企画班員でどんぐりクラブ屋台村、クラブリンクジャパンの山中裕文氏、パネラーには中央・地方企画班員でごうどスポーツクラブの小倉弐郎氏、クラブマネジャーとしてクラブ運営を行いながら、高知県のクラブ育成アドバイザーを務める小松弘幸氏が登壇し、クラブの理念と現状とのギャップを埋めるための事業計画や、設立準備委員会等会議を行う上での議長と委員とのギャップ等について、歯切れの良い話が繰り広げられた。

その中で小倉氏は、最初に、ごうどスポーツクラブの理念は「スポーツを通じて人づくり・まちづくり」であり、地域の隙間を埋める第３のスポーツ団体をつくるのではなく、地域のスポーツの仕組みを変える活動である。クラブの理念に対して、現状分析し、足りないものをギャップというのなら、ギャップがあるのは当然で、ギャップを大きな問題と感じたことはないとのことであった。無論、理念を実現するためには、「誰に」「何を」「どうすれば良いのか」というような、綿密な事業計画や経営資源の確保については最重要であるとした。最後に、地域におけるクラブの更なるスキルアップが必要であるとした。

小松氏は、クラブマネジャーとしてまた、クラブ育成アドバイザーとして、現状、育成指定クラブの準備委員会が困っているであろう「会議のギャップ」「集客のギャップ」についての話があった。「会議のギャップ」については、どうしても一部の人しか意見が出ない。多くの人の意見を引き出すためにはどうしたらよいか。そのテクニックとして、事前に資料の配布をし、発言者を

決めておくことや名前を呼んで発言を求めるようにすることが重要とした。委員に事前の勉強の機会を与え、発言の機会を議長がつくる必要性を説き、また、人の力は無限大でその力を引き出す雰囲気づくりも重要であるとした。次に、「集客のギャップ」については、クラブが思ったほど人が集まらないことについての話しがあり、多くの人に集まってもらうためには、広報ツールの工夫が必要とし、例として、ひとつの商品のネーミングについて、企業の広報手段をわかりやすく紹介された。また、自由に意見の出るムードづくりを行い、自由な発想での、ネーミング、配布対象、効率の良い運用が必要であるとした。その後、会場より地域の役割の明確化、スタッフの募集の仕方、補助金が終わった後の財源等についての質疑応答があった。最後に、コーディネーターの山中氏より、指定期間はクラブ育成の助走期間であり、経営資源の確保を行なうことが重要で、準備委員会ひとつとっても、委員が理念を共有し、継続できるスポーツクラブを設立するには、委員一人ひとりが社会的地位をはずし、全員が対等で話を行なわないと声の大きい人だけの意見でクラブができてしまう。また、各委員のキャリアを引き出すことのできる役割分担が必要であるとして、シンポジウムを閉じた。

グループワーク：今、クラブに何が足りないかを考えよう！

グループワークでは、あらかじめ、都市規模、設立母体、クラブの特徴、継続・新規等類似する 3～4 クラブを１グループとする９グループでワークを行なった。最初に、鶴岡愛媛県クラブ育成アドバイザーよりグループワークについて説明を行い、その後、各県クラブ育成アドバイザーの進行で各ワークが行なわれた。今回の流れは、以下のようにクラブのありたい姿に近づくためにはどのような考え方で進めるかを習得するもので、各グループでテーマを選び、そのテーマに対するありたい姿を記入（発言）、その後、現状の姿を記入（発言）し、いくつかのテーマを繰り返す。次に、ギャップを考え、解消の優先順位、また、誰に、何を、どうすればいいのかを話し合い、それに対しての有効な事業計画をたてることを行った。各グループとも、現状における各育成指定クラブの課題を例に出し、時間が足りないほど熱心なワークが行なわれた。グループワークの終わりに、参加者がグループワークで感じたこと、今後の活動目標等を振り返りシートに記入し、グループ内で発表を行った。

～グループワークの流れ～

① クラブのありたい姿 － 現在の姿 ＝ ギャップ

（理念に基づきクラブの目指す姿）　（現状分析）　（目指すクラブに何が足りないか）

② ギャップを埋める ＝ 誰に 何を どうするのか

（足りないものを補うために、どのような戦略、事業計画を立てるか）

グループワーク終了後、地方企画班員より、各育成指定クラブに、一歩踏み出すための実践的な事業展開を望む声や地域の将来について多くの夢を語り合い、地域で町づくりの核として活躍できるよう一緒にがんばりましょうと期待を寄せた。

2　会議を終えて

今回のグループワークで地方企画班員、アドバイザーが育成指定クラブに期待したのは、スポーツクラブづくりは目的ではなく手段であり、スポーツクラブをつくるためだけの事業の進め方の習得だけではなく、スポーツクラブを何のためにつくるのかをしっかり持ち、それをみんなで共有し、理念の実現のために何をすれば良いかを感じてもらうことであった。目指すものもない場当たり的な事業を行うのではなく、地域の課題を把握し、多くの夢を語り合いながら、私の町のスポーツクラブ、私たちがつくるスポーツクラブのありたい姿をしっかり話し合い、準備委員全員が共有することが重要であり、その“理念の共有”こそが、地域ぐるみのスポーツクラブになると信じている。

（報告：菅岡　克則　中国・四国ブロック　地方企画班員）